

普及指導員調査研究報告書

課題名：イチゴ産地の再構築 ～「かおり野」の品質安定化～

農林総合技術センター技術指導室 担当者氏名：重藤 祐司

<活動事例の要旨>

「かおり野」の栽培マニュアル作成や実証ほの設置等により、関係機関と連携して生産者への栽培技術定着と品質の改善を図った。

1 普及活動の課題・目標

山口県におけるイチゴは、単価の低迷や生産コストの上昇、病害発生による収益性の低下等により栽培面積は減少している。このような状況に対応するため、平成23年、草勢が強いことから燃油使用量が削減可能で、炭疽病抵抗性を持つ三重県育成の「かおり野」を山口県推奨品種に決定した。

平成24年度の実証結果等より、本品種は多収性であったが、生産者によっては品質（糖度、果形等）が不安定であり、市場等より改善が求められていた。そこで、栽培マニュアル（栽培記録帳暫定版）の作成や実証ほの設置等により、生産者への栽培技術定着と品質安定化を図る。

2 普及活動の内容

(1) 調査研究期間

平成25年4月から平成26年3月

(2) 調査研究の対象地域・場所

実証ほ12カ所

No.	農林事務所名	JA名	地区	標高	方式
1	岩国	岩国市	岩国市周東町粗生	69m	土耕栽培
2	周南	周南	樋口	130m	田布施方式
3	山口	山口中央	山口市平川	18m	らくラック内なみ
4			山口市秋穂二島	15m	らくラック外なみ
5		防府とくち	防府市切畑	24m	長崎方式
6			山口市徳地	58m	三笠方式
7	美祿	山口宇部	宇部市東岐波	0m	土耕栽培
8	下関	下関	王司		土耕栽培
9			菊川		らくラック外なみ
10	長門	長門大津	長門市日置	150m	とこはる
11			長門市油谷	5m	長崎型
12	萩	あぶらんど萩	萩市椿	0m	土耕栽培

(3) 調査項目

育苗：培地、施肥、切離日、葉汁窒素濃度
花芽分化等

本ほ：施肥、温度管理、草高、葉長、開花日
収量、糖度等

(4) 活動のプロセス

定期的な実証ほの巡回や、検討会の開催により、かおり野の品質（糖度）向上を重視した栽培技術を確立し、栽培マニュアル案を作成。栽培希望者向けの研修会を開催し技術の普及を図った。



圃場巡回の様子

(5) その他

全農、J A、農業部、園芸作物研究室と情報共有しながら、連携して取り組んだ。また、育成者である三重県との情報交換も行った。

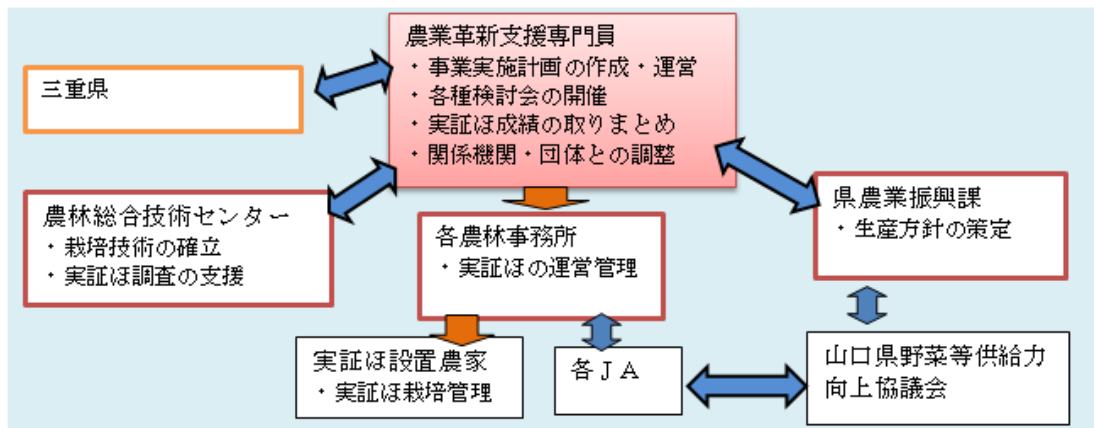


図1 体制図

3 普及活動の成果

(1) 栽培管理マニュアルの策定

- ・品質重視の栽培管理徹底のため、栽培マニュアル暫定版を作成し、生産者研修会を開催して周知した(図2)。
- ・圃場巡回指導(6回)、課題別検討会の開催(4回)により、技術課題の検討を行うとともに、随時栽培マニュアル案に反映させた。



図2 栽培マニュアル及び研修会の様子

(2) 適正な草勢管理指導の実施

- ・平成24年度の実証結果とりまとめや育成者である三重県との情報交換により、以下の品種特性が判明した(表1)。生産者に対して、J Aや農林事務所と連携して「適正な草勢管理」を最重要事項として徹底を図った。

表1 草勢管理と品質への影響

生育状況	品質
草勢が強い (草高が30cm以上)	「糖度の低下」 「乱形果多発」 「着色不良」
草勢が弱い (葉長が20cm以下)	「糖度の低下」

(3) 実証ほ調査結果

- ・草高はH24年度と比較して低く、概ね30cm以下に管理されていた(表2)。
- ・葉長はH24年度と比較して低く、2月に平均21cmになった(表3)。
- ・糖度はH24年度と比較して高く、いずれの月も9度を超えていた(表4)。
→ 全体的には草勢抑制管理が徹底されており糖度は前年より安定していたが、一部の圃場では2月の着果負担や低温により、おい化の目安である葉長20cm以下となり、糖度低下も見られた。

表2 草高 (cm)

年度	10月15日	11月15日	12月15日	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日
H25	21.2	30.9	32.7	28.5	25.3	23.6	—
H24	21.4	33.8	37.1	34.6	28.8	26.6	33.1

※ 適正值：30cm以下、12圃場の平均

表3 葉長 (cm)

年度	10月15日	11月15日	12月15日	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日
H25	25.3	32.7	30.6	23.8	21.0	22.6	—
H24	24.7	34.3	35.7	31.8	26.3	25.8	30.5

※ 適正值：20cm以上、12圃場の平均

表4 糖度 (%)

年度	11月15日	12月15日	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日	平均
H25	10.2	11.4	11.0	9.7	9.7	—	10.4
H24	9.5	9.6	8.8	9.1	8.7	8.2	9.0

※ 適正值：8度以上(9度以上が望ましい)、12圃場の平均

(4) その他

- ・平成26年3月11日、市場を含めた情報交換会の場で品質について一定の評価を得た。

4 今後の普及活動に向けて

- ・草勢管理による糖度安定化が図られたことにより、H26年度から本品種を正式な推進品種に位置づけるためのデータが揃った。
- ・今後は栽培マニュアルに従った管理を徹底するとともに、生産者間の品質バラツキの解消に努める必要がある。
- ・引き続き、普及指導員調査研究の実施や試験研究機関との連携により、残された技術課題解決を図っていく。

※ 残された課題：芯止まりの原因解明、着色改善、2月以降の糖度維持、省力育苗体系確立、無加温ハウスにおける保温対策 など